令和７年度　　日野市立 大坂上中学校　　経営重点計画　　自己評価シート　　令和7年6月公表

★学校の教育目標　　〇よく考え進んで学ぼう　〇思いやりの心を持ち他につくそう　〇心身を鍛え全力でやり抜こう

★目指す学校像（ビジョン）

【目指す生徒像】　①**自ら学び、考え、何事に対しても主体的に取り組む生徒** ②豊かな心を持ち、決まりやマナーを守り社会のために役立とうとする生徒 ③学校行事、生徒会活動、部活動などを通して心身を鍛え、最後までやりぬく生徒　等

【目指す学校像】　①**一人一人の生徒を大切にし、鍛え、可能性を伸ばす学校** ②心を豊かに育み、規範意識を持って社会に貢献できる生徒を育てる学校 ③生徒同士、**生徒と教員が相互に信頼する温かい学校　等**

【目指す教師像】　①生徒の良さや能力を引き出し、学力を高める指導をする教師 ②生徒の心の豊さを育み、規範意識・**人や社会への貢献の大切さを教え、実行させる教師** ③生徒の心身を鍛えるための**指導法の工夫や努力を惜しまない教師**　等

★重点計画の概要

「学びの変革プロジェクト」

第４次日野市学校教育基本構想に基づき、「学びの変革プロジェクト」を実施する。各教科における探究的な学びを深めていく足がかりとして、令和7年度入学生から、総合的な学習の時間の内容について見直しを図り、地域（日野市）をテーマにした探究学習を進めていく。また、令和6年度に学習・情報センターとして整備した学校図書館における探究学習を中心とした授業実践を行い、生徒が個々の課題解決に取り組むことができる授業への変革を目指していく。

| 領域 | 中期経営目標 | 短期経営目標 | 具体的方策 | 評価指標・評価基準 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 取組指標 | | 成果指標 | |
| みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる | 自分に合った学びと学び方を通じて、探究的で深い学びを実現する<br><br>「学びの変革プロジェクト」 | 学指導要領に基づく適正な教育課程の編成・実施及び授業と評価の一体化を推進する。 | 「総合的な学習の時間」において「地域（日野市）」をテーマに設定し、生徒自らが設定した課題に取り組ませる（1学年）。学習・情報センターである学校図書館における授業実践を積極的に行う。<br>言語活動・話し合い活動を充実させることで、生徒による自主的な活動を展開する。授業の終末では振り返りを行わせ、自らの変容を確認させるとともに次に授業への見通しをもたせる。 | 4 | ９０%以上の教員が「自分で考え、自分で課題解決に取り組む授業」の実践に努めたと回答 | 4 | ９０%以上の生徒が「授業の場において、自分で考え、自分で課題解決に取り組めた」と回答 |
| | | | | 3 | ８０%以上の教員が「自分で考え、自分で課題解決に取り組む授業」の実践に努めたと回答 | 3 | ８０%以上の生徒が「授業の場において、自分で考え、自分で課題解決に取り組めた」と回答 |
| | | | | 2 | ６０%以上の教員が「自分で考え、自分で課題解決に取り組む授業」の実践に努めたと回答 | 2 | ６０%以上の生徒が「授業の場において、自分で考え、自分で課題解決に取り組める授業である」と回答 |
| | | | | 1 | 「自分で考え、自分で課題解決に取り組む授業」の実践に努めたと回答した教員が６０%未満 | 1 | 「「授業の場において、自分で考え、自分で課題解決に取り組めた」と回答」と回答した生徒は６０%未満 |
| | 社会の一員としての自覚を持ち行動する姿勢を育成する | 身近にある様々な課題を、自分事としてとらえ、変化を起こすために必要なことを考えさせることで、責任をもって行動し最後までやり抜くことができる生徒を育てる。 | 生徒会を中心に、令和5年度の全校アンケートにより設定した坂中生のありたい姿、「尊重・伝統・進化・自律」に基づく、委員会を中心とした「生徒会プロジェクト」を推進し、生徒自らがよりよい生活とは何かを考え、具体的に行動できるようにする。 | 4 | ９０%以上の教員が教育活動を通し、生徒の社会参画への意識醸成に努めたと回答 | 4 | ９０%以上の生徒が、仲間や友達と話し合いながら、学校生活をよりよくできたと回答 |
| | | | | 3 | ８０%以上の教員が教育活動を通し、生徒の社会参画への意識醸成に努めたと回答 | 3 | ８０%以上の生徒が、仲間や友達と話し合いながら、学校生活をよりよくできたと回答 |
| | | | | 2 | ６０%以上の教員が教育活動を通し、生徒の社会参画への意識醸成に努めたと回答 | 2 | ６０%以上の生徒が、仲間や友達と話し合いながら、学校生活をよりよくできたと回答 |
| | | | | 1 | 生徒の社会参画への意識醸成に努めたと回答した教員が６０%未満 | 1 | 「学校をよりよくできた」と回答した生徒が６０%未満 |
| みんなの多様な学びとしあわせをつくる | 多様な個性を認め合える安心・安全で何事にも挑戦できる環境をつくる | 自他の生命を尊重し、より良い人間関係を築くことのできる教育を推進する | 全ての教育活動を通して「生命尊重」の精神を育てる。各種アンケートを通し、安心安全な学校生活を保障するとともに、一人一人に対して丁寧な指導・対応を通して、すべての生徒が安心して充実した学校生活を送ることができる教育環境の整備に努める。登校がかなわない生徒にも校内登校支援教室や、個別相談等を通して教室復帰の道筋を作る。 | 4 | ９５%以上の教員がいじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答 | 4 | ９５%以上の生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることがないと回答 |
| | | | | 3 | ９０%以上の教員がいじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答 | 3 | ９０%以上の生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることがないと回答 |
| | | | | 2 | ８５%以上の教員がいじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答 | 2 | ８５%以上の生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることがない |
| | | | | 1 | いじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めたと回答した教員は８５%未満 | 1 | 生徒が、学校生活の中で「いやだな、ひどいな」と感じることがない８５%未満 |
| | 特別支援教育の充実を図る | 特別な支援を必要とする生徒の実態を的確に把握し、校内外にお支援体制を整備し、個に応じた支援を進める。 | 校内委員会を定期的に開催することで生徒の実態を共通理解し共通実践を図る。管理職、各学年に配置した特別支援コーディネーター・ＳＣ・養護教諭・家庭と子供の支援員との連携により、生徒や家庭を支援し、関係諸機関との相談・支援体制を整える。 | 4 | ９５%以上の教員が校内委員会にあがった生徒の実態把握ができ指導に生かせたと回答 | 4 | ８０%以上の保護者が、学校の子供への支援が合理的で適切であると回答 |
| | | | | 3 | ９０%以上の教員が校内委員会にあがった生徒の実態把握ができ指導に生かせたと回答 | 3 | ７０%以上の保護者が、学校の子供への支援が合理的で適切であると回答 |
| | | | | 2 | ８５%以上の教員が校内委員会にあがった生徒の実態把握ができ指導に生かせたと回答 | 2 | ６０%以上の保護者が、学校の子供への支援が合理的で適切であると回答 |
| | | | | 1 | 校内委員会にあがった生徒の実態把握ができ指導に生かせたと回答した教員は８５%未満 | 1 | 学校の子供への支援が合理的で適切であると回答した保護者は６０%未満 |
| 社会と未来に開き、みんなでつくる | 小中高の連携を深め、協力体制の推進を図る | 小・中連携教育の取組を深め、義務教育9年間の連続性を持たせ、生徒を育成する。<br>日野台高校との連携を深める。 | 小・中教員による教科・領域の研究授業・出前授業・協議会等を通し、教科や生活指導の連携を図り、小中連携教育を推進する。<br>校区の小学校や日野台高校等、地域の他校種の学校と交流することで、本校への理解を深めてもらうとともに、協力が得られるような体制づくりをする。 | 4 | ９５%以上の教員が他校種との交流を積極的に取り組むことができたと回答 | 4 | ９５%以上の教員が小中連携の取組を、後の指導に役立てることができたと回答 |
| | | | | 3 | ９０%以上の教員が他校種との交流を積極的に取り組むことができたと回答 | 3 | ９０%以上の教員が小中連携の取組を、後の指導に役立てることができたと回答 |
| | | | | 2 | ８０%以上の教員が他校種との交流を積極的に取り組むことができたと回答 | 2 | ８０%以上の教員が小中連携の取組を、後の指導に役立てることができたと回答 |
| | | | | 1 | 他校種との交流を積極的に取り組むことができたと回答した教員が８０%未満 | 1 | 小中連携の取組を、後の指導に役立てることができたと回答した教員は８０%未満 |
| | 地域・社会との連携を深める | 学校と地域・社会との相互の交流を活性化する | 教育計画（SDGｓカレンダー等）の中に、地域人材や事業所等の活用を位置付けるとともに、生徒へ地域参加への呼びかけや情報提供の機会を増やす。<br>また、学校Ｗｅｂサイトを通し、広く地域に学校教育の様子を発信する | 4 | ９０%以上の教員が地域人材や事業所等を活用することができたと回答 | 4 | ８０%以上の保護者が生徒と地域とのつながりを実感したと回答 |
| | | | | 3 | ８０%以上の教員が地域人材や事業所等を活用することができたと回答 | 3 | ７０%以上の保護者が生徒と地域とのつながりを実感したと回答 |
| | | | | 2 | ７０%以上の教員が地域人材や事業所等を活用することができたと回答 | 2 | ６０%以上の保護者が生徒と地域とのつながりを実感したと回答 |
| | | | | 1 | 地域人材や事業所等を活用することができたと回答した教員が７０%未満 | 1 | 生徒と地域とのつながりを実感したと回答した保護者は６０%未満 |

**※評価指標・評価基準は、２の段階を現状としています。**